

	一般的名称	報告の概要
18	メシル酸ペルゴリド	ドパミン作動薬であるペルゴリド、カベルゴリンは心臓弁閉鎖不全のリスクを高めることが示唆された。
19	アセトアミノフェン	高齢者での上部・下部消化管イベント(穿孔や出血)による入院リスクは、非選択的・非ステロイド性消炎鎮痛剤とアセトアミノフェンの併用、またはアセトアミノフェンの高用量服用と関連することが示唆された。
20	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	呼吸窮迫症候群(ROS)を伴う早産児におけるアンチトロンビン治療の用量及び時期に関するプラセボまたは無治療との無作為化対照比較試験2報のレビューにおいて、アンチトロンビンの投与により、ROSの早産児の死亡率を上昇させることが示唆された。
21	塩酸ミトキサントロン	1985～2001年の間にフランスの総合病院、がんセンター、診療所で最初に乳癌治療を受けた女性患者を対象とし、AML(138名)/MDS(44名)とコントロール(534名)を比較した症例対象研究において、ADL/MDSリスクがトポイシメラーゼII阻害剤を中心とする化学療法で増大し、アントラサイクリン系よりもミトキサントロン系の方がリスクが高かった。また、G-CSF投与患者でもADL/MDSリスクが増大した。
22	フルコナゾール	ネビラピンを基本とした治療を開始したHIV感染症患者122例を対象としたプロスペクティブ研究において、フルコナゾール非併用群では皮膚発疹が6例に発症し、フルコナゾール併用群では血漿中ネビラピンのトラフ値が1.76倍に上昇し、1例に肝炎が発症した。
23	シロスタゾール	健康成人10例を対象とした無作為化非盲検交差試験において、シロスタゾールとイチョウの併用により、出血時間が有意に延長した。
24	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	一医療機関において、肝細胞癌の治療に使用する院内製剤であるファルモルビシン・ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル懸濁液を投与された患者が75名おり、発現した890件の副作用のうち、主な副作用は血清アルブミン低下、AST/ALT上昇、血色素減少などであった。
25	メルカプトプリン	シクロスロリンによる治療を受けた144例の治療記録を調査したところ、1例が長期のメルカプトプリン治療中に非ホジキンリンパ腫を発生した。
26	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	腹腔内感染症患者を対象とした多施設共同試験において、ピペラシリン/タゾバクタムを投与した217例のうち、7例が投与中に死亡し、うち1例が本剤と死亡との因果関係がある虚血性大腸炎により死亡した。
27	ニコチン酸トコフェロール	心筋梗塞の既往歴のある患者にビタミンEを投与すると、心不全発現リスクが高まることが示唆された。
28	塩酸バンコマイシン	インドの3次医療機関においてバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が検出された。
29	乾燥濃縮人活性化プロテインC	敗血症起因の心肺不全を有する在胎期間38週～17歳までの被験者に対する無作為化試験において、生後60日未満のダルベパエチン投与群患者は、プラセボ群と比較して、重篤な有害事象のリスクが高く、大出血を起こす傾向が強いことが示唆された。
30	シロドシン	健康男性においてシロドシンを内服したところ、全例で精囊の収縮不全による射出障害がみられた。
31	塩酸アマンタジン	国内で、2005～2006年冬季に分離されたアマンタジン耐性AH3型インフルエンザの発生率について遺伝子解析を行ったところ、塩酸アマンタジン耐性のインフルエンザウイルスの増加が示唆された。
32	塩酸アマンタジン	A型インフルエンザの治療に対して塩酸アマンタジンを投与した11例中9例で耐性ウイルスが認められた。
33	レトロゾール	ホルモン受容体陽性患者の閉経後女性8028例を対象としたレトロゾールとタモキシフェンによる4つの術後補助内分泌療法のPhaseIII無作為化二重盲検試験の5年間治療の比較の51ヶ月追跡の中間解析結果において、レトロゾール群で骨折、関節痛、高コレステロール血症、心血管イベントの発生率が高く、タモキシフェン群では血管塞栓症、子宮内膜の病理学的異常、ほてり、寝汗、陰出血が多かった。